

受験番号

氏名

二〇二二年度

武蔵野短期大学 幼児教育学科

特待生選抜入学試験

二〇二二年一月二十九日実施

国語総合（二〇〇点 六〇分）

注意事項

- 一 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二 監督者の「解答はじめ」の指示があった後、速やかに問題冊子と解答用紙の両方の所定欄に受験番号と氏名を記入しなさい。
- 三 この問題冊子は、5ページあります。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 四 解答は、解答用紙の所定の欄に記入しなさい。
- 五 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 六 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意をしますので、注意や指示に従ってください。従わない場合には、不正行為とみなされる場合があります。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。
- 七 試験終了後、問題冊子は回収します。

第一問 次の傍線部の漢字の読み方をひらがなで答えなさい。

(1) 頑固な性格のため、頑なに拒んでいる。

(2) 遮光シートで、夏の日差しを遮る。

(3) 教諭が生徒を諭す。

(4) 偽名を名乗って、正体を偽る。

(5) 彼は朝から機嫌が悪く、後輩に嫌味を言った。

第二問

「五感」とは、「目、耳、鼻、舌、皮膚の五つの器官を通じて外界の物事を感じる五つの感覚」をさします。(1)～(5)のそれぞれの器官に対応する感覚を「く覚」という書き方になるように漢字で答えなさい。

(1) 目

(2) 耳

(3) 鼻

(4) 舌

(5) 皮膚

第三問

次の(1)～(5)は鳥の名が入った慣用句です。それぞれの慣用句の意味として適切なものを後の中から選択し、その記号を答えなさい。

(1) 閑古鳥が鳴く

(2) 立つ鳥跡を濁さず

(3) からすの行水

(4) 鳩が豆鉄砲を食ったよう

(5) 目白押し

ア 引き際が潔いこと。

イ 多くの人や物事が込み合って並んだり、続いたりすること。

ウ 才能や実力のある者は、軽々しくそれを見せつけるようなことはしないということ。

エ 人が集まらずものさびしい様子。特に商売などがはやらず、さびれている様子。

オ 突然の出来事に驚いて、目を丸くしているさま。

カ 入浴時間がきわめて短いこと。

第四問 次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

子どもはどのように環境に働きかけるのか。また、環境は子どもにどのように働きかけるのか。たとえば、泥団子づくりに夢中になっている幼児は、この遊びには黒土と適量の水と白砂が必要であることを知っている。それだけではなく、友達からの情報や自分自身の試行錯誤を通して、園庭のどこの土が適しているかを把握している。公園に散歩に出かけたとしても固定遊具には目もくれずに「白砂集め」をしたりする。土も水も日常的には無意識のうちに接しているものだが、泥団子づくりに熱中している子どもたちにとっては、特別に意味ある環境なのである。一方で泥団子づくりに興味がない子どもは「白砂」には関心を示さない。すなわち、環境はそこにあるだけでは意味あるものとは認識されない。活動の主体者である子どもが、興味をもってそこにかかわるときに意味が生じる。主体者が環境に働きかけたり、環境のもつ力を主体者が自ら引き出したりすることによって、主体者と環境との間に意味が生成されるのである。

そのようにして生まれた遊びの状況は、取り組んでいる子どもの中に閉じられない。園という集団生活の場において、その遊びを見ている子どももいる。たとえば、年少の子どもが見ている、自分も年長さんのような硬い泥団子を作ってみたいと思うようになるかもしれない。作らないまでも、泥の感触を楽しむ遊びは展開されるだろう。土で遊ぶことに遊びの価値を見出す保育者の思いと、適切な環境の構成と援助があつて、子どもは土や水という環境と自分との間に関係をつける。そしてそれが脈々と続くことによって園の遊び文化となり、環境は子どものさらなる能動性を誘発するのである。

子どもがどのように環境にかかわるのか、そして、そこでどのようなことを経験するのか。このことを理解しなければ「環境を通じた保育」を展開することはできない。言い換えれば、①子どもと環境との間に成立する双方向的な関係によってどのような遊びや生活が生み出されるかを理解しなければ、保育者は次の環境を構成することはできない。

素材・教材・遊具・道具・空間・時間など、子どもを取り巻く様々な環境は、社会文化的状況の中で、潜在的な可能性をもっている。たとえば、多くの子どもは砂場でバケツを見ると中に砂を入れようとすると、傍らにシヤベルがあればかき混ぜ始める。幼稚園や保育所の文化の中では、「バケツ」というモノの存在が子どもに「中に何かを入れる」行為を要請し、シヤベルというモノの存在が②スクったり混ぜたりする「行為を子どもの中

から引き出すのである。ただしバケツがそこにあるだけではそのように使われない。バケツを使って遊んでいる他児の存在や保育者のモデルとしての動きがあることによつて、また傍らに砂があることによつて、バケツのもつ潜在的な可能性がたちあらわれ、子どもはそれを受け止めて遊ぶことができる。

ある夏の日、水遊びが始まり保育者がホースでシャワーのように水を撒いた。すると水遊び用に出していたバケツを頭からかぶつて濡れないようにした子どもがいて、みんなが真似をし始めた。「何かを入れて」遊んでいるうちにバケツのもつ他の機能にも気づいたのだろう。用具や遊具を使いこんでいくうちに^③子どもはそのものもつ様々な機能を発見していくだろう。そして状況に応じて使い方を変えるということを学んでいく。道具の目的的使用は生きる力の要素のひとつとして掲げられているものである。子どもは遊びの中でモノとかかわることによつて、モノとのかかわり方を知り生きる力を蓄えているといえるだろう。「環境を通して保育」を標榜するならば、私たちはもつと子どもと環境とのかかわり方について知る必要がある。

(日本保育学会編『保育学講座3 保育のいとなみ―子ども理解と内容・方法』による)
なお、出題に際し、一部改変を加えている。

(1) 傍線部①「子どもと環境との間に成立する双方向的な関係」とはどういう関係をさすか、文中の語を利用して述べなさい。

(2) 傍線部②について、「スクウ」と同じ漢字を使用しているものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 蟻が古い家にスクウ イ おぼれている子をスクウ
ウ スープをスプーンでスクウ

(3) 傍線部③「子どもはそのもののもつ様々な機能を発見していく」とはどういうことか、文中の「バケ

「ツ」を例に挙げて説明しなさい。

(4) 文中の「環境」の考え方として適切なものには○、間違っているものには×を書きなさい。

① 素材・教材・遊具・道具・空間・時間など、子どもを取り巻く様々なものが環境になり得る。

② 環境はそこにあるだけで意味のあるものとして認識されている。

③ 泥団子づくりに興味がない子どもにとって、「白砂」は特別な意味のある環境である。

④ 環境は、幼稚園や保育所という集団生活の場に限られるため、潜在的な可能性をもたない。

⑤ 環境とのかかわり方は、遊びの中で状況に応じて変化することがある。

(5) この文章の内容を踏まえて、あなたが考える保育者の役割について一〇〇〇～一五〇〇字で述べなさい。

受験番号

氏名

第一問（各2点）

※解答は順不同とする

(5)	(4)	(3)	(2)	(1)
きげん	ぎめい	きょうゆ	しゃこう	がんこ
いやみ	いつわ	さど	さえぎ	かたく

※6

※5

第二問（各2点）

(5)	(3)	(1)
触覚	嗅覚 (臭覚も可)	視覚
	(4)	(2)
	味覚	聴覚

第三問（各2点）

(5)	(3)	(1)
イ	カ	エ
	(4)	(2)
	オ	ア

※2

※1

第四問

(1)

(5点)

(2)

(5点)

(3)

(15点)

(4)

(各3点)

(5)

(20点)

子どもが環境に働きかけ、環境が子どもにも働きかけること
 (子どもが環境に働きかけたり、環境のもつ力を子どもが
 自ら引き出したりすること も可)

ウ

バケツには「中に何かを入れる」という機能があるが、水
 遊びの中で頭からかぶって濡れないようにするという使い
 方もあることにも気づいたこと

①

○

②

×

③

×

④

×

⑤

○

150

100

50

※の箇所は記入しないでください

※4

※3